

ゲームの準備

内容物

- 両面ゲームボード 1枚
- アクションマーカー 22枚
- 8勝利点マーカー 6枚
- 商品カード 74枚 (象牙、香辛料、磁器、絹、茶各 14枚)
- ラクダ追いカード 5枚 (1~5番)
- 概要カード 5枚
- 宝石 30個 (青、黄、緑、赤、紫各 4個、無色 10個)
- 布袋 1つ
- ついたて 5枚
- ラクダ駒 10個
- シール 10枚 (ゲーム開始前にラクダ駒に貼ります)
- ルールブック 1冊
- サマリーシート 1枚

1

アクションフィールドが印刷されている面 (最初のプレイ時はこちらの使用を推奨します) が印刷されていない面のどちらかを表にして、ゲームボードをテーブルに置きます。印刷されていない面を使う場合、アクションマーカー 22枚を裏向きにしてよく混ぜ、アクションフィールドに置いて表向けます。

2

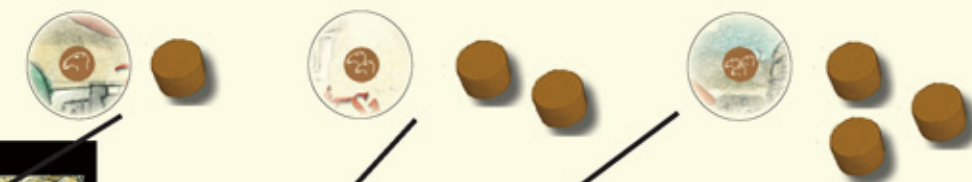
8勝利点マーカーをボードの横に置きます。



3

ラクダ駒 10個を裏向きにしてよく混ぜ、隊商が出発する3つの都市に、以下のように分配して表向けます。

- ・タシケント (Tashkent) に 1個 (1隊商と呼びます)
 - ・アムリツアル (Amritsa) に 2個 (2隊商と呼びます)
 - ・長安 (Chang'an) に 3個 (3隊商と呼びます)
- 残りの4個は隊商宿のラクダ置き場に (色の濃いスペースから順番に1個ずつ) 表向きで置きます。

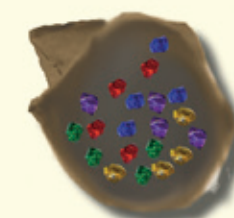


4

無色の宝石 10個を隊商宿の中央に置きます。

5

色つきの宝石 20個を布袋に入れます。



6

布袋から宝石を1個ずつ取り出し、隊商の目的地となる3つの都市に、以下のように分配して置きます。

- ・イスファハン (Yspahan) に 1個 (1隊商の最初の目的地都市)
- ・サマルカンド (Samarkand) に 2個 (2隊商の最初の目的地都市)
- ・ビザンツ (Byzan) に 3個 (3隊商の最初の目的地都市)

注意: 熟練プレイヤー同士でプレイする場合、隊商の出発都市と目的地都市を任意の都市に変更してもかまいません。

13

最も番号の小さなラクダ追いカードを持っているプレイヤーがスタートプレイヤーとなります。

12

残りの商品カードはカード置き場に裏向きで置き、山札とします。山札の上から3枚を表向け、カードディスプレイとします。

11

商品カード 70枚をよく混ぜ、各プレイヤーに手札として4枚ずつ配ります。



10

余ったついたて、概要カード、ラクダ追いカードは箱に戻し、ゲームから除外します。

9

ラクダ追いカード 5枚をよく混ぜ、各プレイヤーに1枚ずつ配り、表向きで手元に置きます。



8

各プレイヤーは概要カード1枚を受け取ります。



7

各プレイヤーはついたて1枚を受け取り、手元に置きます。



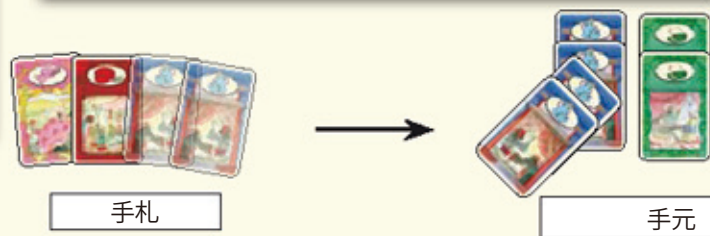
ゲーム終了時の例 (4人プレイ)

例 19:

ヘルムートは3隊商 (絹 (10)、香辛料 (8)、磁器 (2)) を目的地都市に移動させました。ルールに従って3つの商品が売却され、ラクダ駒が隊商宿に置かれました。布袋には宝石が2個しか残っておらず、新たな目的地都市に宝石3個を置くことができないため、3隊商は新たな交易のために都市を出発することができません。新たな隊商のラクダ駒は隊商宿に残され、布袋の宝石2個はゲームから除外されます。

以降は隊商が2つだけになります。ゲームはどちらかの隊商が目的地都市に到達するまで続きます。

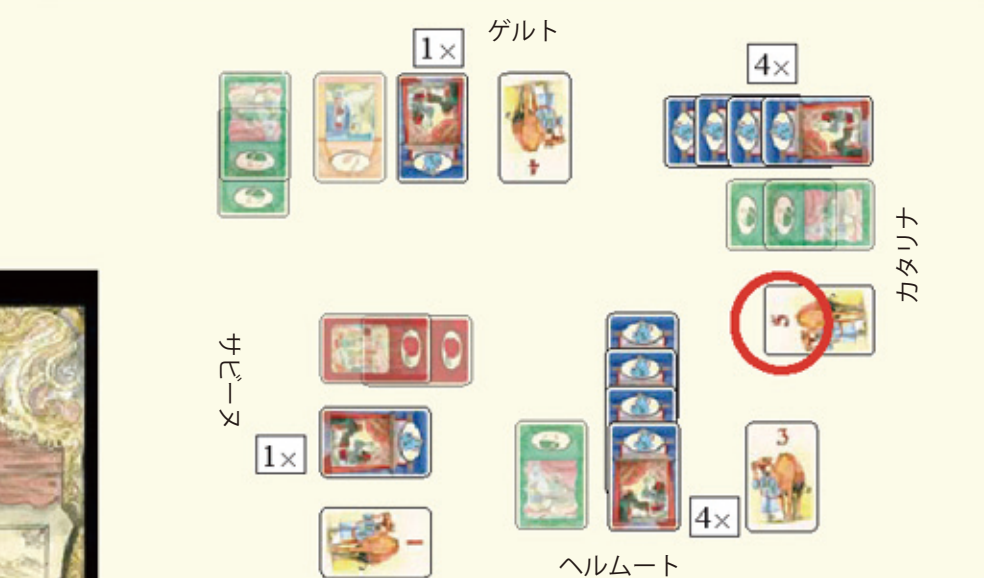
1
カタリナは手札の磁器2枚を手元に置き、2隊商 (磁器 (9)、茶 (6)) を目的地都市の長安に移動させました。



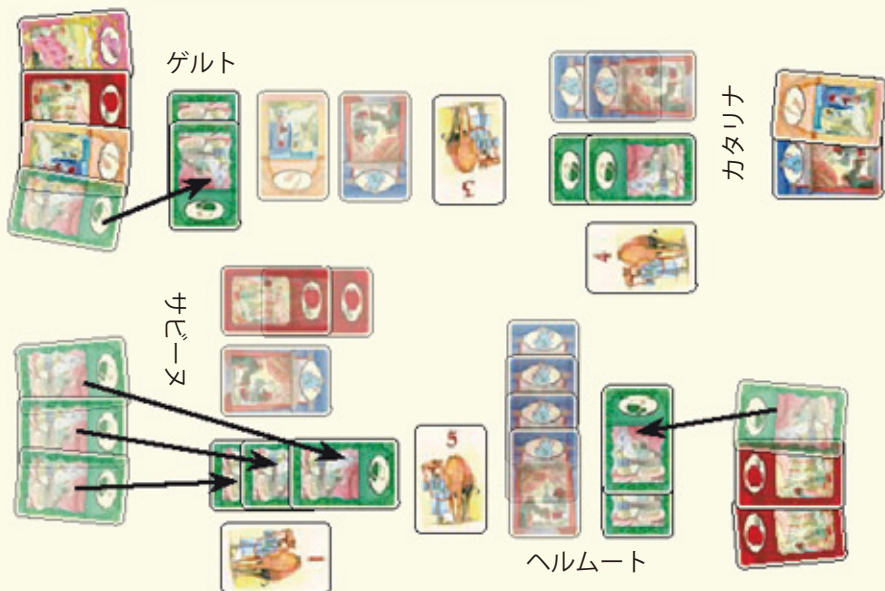
2
この隊商は磁器を運んでいるので、カタリナは手札を2枚補充します (2枚とも山札から引きました)。



3
まず磁器 (9) が売却されます。



11
サビーヌは手元の茶2枚を捨て札にし、最後の宝石を取ってついたての内側に置きました。



5
カタリナは手元の磁器2枚を捨て札にし、2個の宝石から1個を選んでついたての内側に置きました。同時に、カタリナは5番のラクダ追いカードをヘルムートの3番のカードと交換しました。磁器 (9) のラクダ駒は隊商宿に置かれます。



10
最後の「大市の日」をはじめる前に、全プレイヤーはすべての手札を手元に置くことができます。売却できるのは茶だけなので、それ以外のカードは無関係です。ゲルトは手札の茶1枚を手元に置き、計2枚としました。カタリナは手札に茶を持っていないので、手元の茶は2枚のままです。ヘルムートは手札の茶1枚を手元に置き、計2枚としました。しかしサビーヌは最後の手番に茶3枚を取っていたので、それを手元に置いて3枚とし、売却の権利を得ました。



7
カタリナとゲルトが2枚、ヘルムートが1枚の茶を手元に置いており、サビーヌは1枚も置いていません。再びラクダ追いカードを比較します。

6
次に茶 (6) が売却されます。



9
ボード上には1隊商 (茶 (5)) が残っています。この隊商は即座に目的地都市に置かれます。

8
カタリナは3番、ゲルトは4番です。ゲルトは手元の茶1枚を捨て札にし、残りの宝石を取ってついたての内側に置きました。ゲルトとカタリナはラクダ追いカードを交換し、茶 (6) のラクダ駒は隊商宿に置かれます。

